



梁川駅逸品



～鮎と清流の駅～ 梁川駅へ

梁川は、武蔵国や相模国に通じ、人々の往来や物資の流通に大きな役割をしていた『江戸道』（桂川北岸）と『鎌倉街道』（桂川南岸）があったと言われています。

旧梁川中学校の南側、綱本地区から原地区へ抜ける細い道の十字路口には、「江戸へ」と印された石の道標が今も立っています。

梁川の地名の由来は、桂川の落ち鮎を取る「梁かけ場」が当地にあり、新倉村、塩瀬村、綱の上村、立野村が一つの村になる時、「梁かけのある川のまわりの地域」ということに由来しています。

大月市を流れる桂川は、山中湖を水源に相模湖そして相模川となって太平洋に注ぐ豊富な水量をもつ川です。

桂川は、鮎釣りのポイントが多数点在することでも有名ですが、梁川は特に渓谷美に恵まれ、6月の鮎釣り解禁と同時に多くの太公望が訪れています。





江戸道と鎌倉街道



江戸時代、梁川は甲州街道から外れていたため、身分を隠す者や通行手形を持たない者などが、「江戸道（甲州古道）」と呼ばれる細い山道を歩いたそうです。

「江戸道」は鳥沢方面から綱の上村の斧窪、彦田を通り、綱本へ下り、ふたたび旧梁川中学校の南側へ登り、原から新倉村へ抜ける桂川北岸の道です。

旧梁川中学校の南側にある、畑の中の小さな十字路には、今も「江戸へ」としてされた石の道標がたっている一方、1800年代の絵図をみると、桂川南岸に小篠方面から立野村、塩瀬村を通り、川合村、そしてさらに東への道が記されていてこれを「鎌倉街道」と呼んでいたようです。

梁川ちんどん



ちんどん屋で町を「売り出せ」

梁川町の住民が懐かしいちんどん屋を復活させようと、愛好会を立ち上げ、市内のイベントに出演して人気を集めています。

世の中の不景気を明るいちんどんミュージックで吹き飛ばそうと素人4人が集まって「梁川ちんどん屋愛好会」を結成したのが平成15年4月。

見よう見まねで練習を重ねる一方、使用している道具や衣装のほとんどはメンバーが手作りしています。

将来は養成学校を創設し、若い後継者を育てるのが夢です。

ふれあい農園やながわ（貸し農園）



豊かな自然環境の中にありながら農業者の高齢化や、後継者不足等の事情により、年々増加傾向にある市内の遊休農地や荒廃農地。本来の生産機能や環境保全機能を復活させ、よみがえった農地を一般に貸し出しています。非農業者に土や農耕に親しむ場を提供し、農業に対する理解と地域の人たちとの交流の場となっています。「土と心」の両面からリフレッシュできるふるさとづくりの拠点を目指します。

◇梁川農園	一般区画（40㎡）	175区画
年間貸付	市内	8,000円
	市外	10,000円

